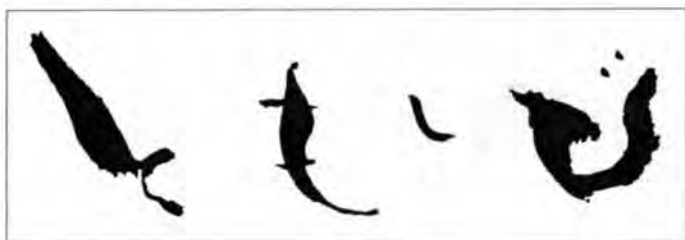


2003. 3
第33号

- ・全国セミナーを盛りあるものに
- ・ストレスの生物学
- ・市民団体の子育て支援活動

ICTと少子化 ー全国セミナーをー

盛りあるものにー

女性のエンパワーメントが叫ばれるようになってから久しい。しかし、いかなる女性がいかなるパワーを求め、それをどのように獲得しようとしているかは必ずしも明らかではない。大卒女性の求めるパワーと、それ以外の女性の求めるものとは自ずから異なるであろう。私たちはこのように一語をとつても言葉は多様な内容を持つことを肝に銘じ、綿密な討論と検討の上に、社会に貢献できるような具体的で実りのあるセミナーを実施したいと思う。

昨年のセミナー「ICTと女性の諸問題」では、情報リテラシーという言葉が用いられた。リテラシーとは「読み書き能力」という意味に使われることが多いが、情報リテラシーという時、これは(1)情報を得る力、(2)情報を選ぶ力、あるいは(3)情報を発信する力などの内容を含む。昨年のICTに関する基礎調査では、JAUWの会員について、(1)は約80パーセントの人が持っていることが判明した。すなわちICT機器

の利用者が多数を占めることである。しかし、(2)(3)については技術的にも、内容的にも今後の発展が望まれる。「教育」と「女性」情報を求める率が一般女性より高かったことでJAUWの特徴が垣間見られた。

その意味で今年東京支部が「子育て支援に関する都内各自治体の情報発信の実態調査」をテーマにセミナーに参加されるのは大いに期待される。都内自治体のICT化の現状ばかりではなく、女性政策への取り組みの程度が明らかにになり、その具体的な情報内容をさらに検討して一般女性に広げていけばJAUWの活動の意義も高まるであろう。

その際、先行調査や研究の実情をまず調べたいし、何よりもまず、なぜ日本で少子化現象が起きているのかを明らかにしたい。スウェーデンやフランスでは少子化現象をすでに克服しているというが、なぜか「都内自治体の子育て支援」が目先の小手先だけの解決に終わっていないか、など、少子化現象の社会・経済的背景をも考慮した、また、長期的な解決策をも視野に入れた研究調査にしたい。そうすれば、国レベルの少子化対策へも貴重な提言を行えると思う。成果を期待したい。

事業報告・予定

7・23 朝倉彫塑館見学

8・21 UWAソウル総会に出席

9・11 講演「女と男の縁切り作法」

10・5 JAUW全国セミナーに出席

11・6 房総方面バスツアー(財務)

11・16 講演「ストレスの生物学」

12・5 講演「捨てる！技術」のお話

2003年 講師・辰巳 渚氏

1・11 新春のつどい(本部主催)

1・29 国内奨学金贈呈式

「源氏香をさく会」

2・19 講演「イスラム文化の女性」

3・1 講師・杉森長子氏

4・13 第46回通常総会(仙台)

4・19 東京支部総会

記念講演

「宇宙の神秘にせまる」

講師・唐牛 宏氏

以降の事業は追ってお知らせします。

二〇〇二年度全国セミナー報告

(02・10・5・6)

支部長 三浦由紀子

独立行政法人となり、どこことなく様相も変わって見える国立女性教育会館（ヌエック）に集ったメンバーは、合計一七三名。（うち一般十名）今年度の全国セミナーは「女性と情報社会—その光と影—」（ICTをめぐむ諸問題）と、全く新しいテーマのもとで始まった。

一日目、今井会長、来賓の三氏、青木IFUW会長のご挨拶。そして企画・情報委員会による「ICT関連機器の普及と現状」（基礎調査）の調査結果の報告と、七支部三委員会による基調講演があった。テーマは「女性とICT—その光と影」。ICTの普及の現状の中で光の部分と、その裏腹の関係にある影の部分を説明。今後、マスメディアの中で女性の発信者を増やすことと女性のエンパワーメントにいかにつなげていくかの重要性について問題提起。

夕べの懇親会は大坂支部のパワフルな司会で、全国の支部が紹介され和気あいあいと盛り上がった。

二日目、午前中は、「女性と社会」



テムを考える会」の「ICT活用方法の紹介」で、情報提供の実例の発表。続いて全員が①ICTと男女共同参画社会②ICTと女性の職業③ICTによる生活の変化の三分科会に分かれ、熱心に討議がなされた。

午後の、柳原国際委員長によるUWA総会（於ソウル）の報告はパワーポイントによる映像で、その雰囲気よく伝えてくれた。休憩後、各分科会の報告があり、その後の全体討議も活発に行われ二日間のセミナーは終了。

今回は、地方自治体の男女共同参画室に属するグループが新聞などで知り、出席、積極的に発言する姿にたいへん刺激された。東京支部委員会にとっても会場係として率先して動きまわる一方、次年度のセミナー参加に向けて、活動の方向をさぐるための有意義な二日間であった。

全国セミナーに出席して

大学婦人協会の一大イベントである全国セミナーに出席して数々の研究発表を見聞し、会場設営のお手伝いをさせて頂いたことは同会が全国組織の知的活動団体で、会員の方々が誇りと熱意を持って活動しておられることを知る良い機会となり感銘を新たにしました。

二日目の分科会ではICTと女性の職業に出席し今回のテーマの「その光と影」の視点から、女性の職業としてICTが現代社会においては必要不可欠であり無限の可能性を持つ光の面である一方で、過度の緊張と長時間労働を余儀なくし女性が結婚、育児と両立させるには多くの困難を伴い結局仕事を辞めるという影の部分も合わせ持つことを自分自身の三、四十年前の体験を思い返すと今もって続く問題点ではないかと考えます。

私が働いていた時代と現在とでは仕事の形態は全く様変わりして、さらに複雑さが増し、スピードを要求されて負担が大きくなっていると思います。働く女性の環境と支援がより充実するように願わずにはいられません。

もうひとつ今回会場となった国立女性教育会館の素晴らしい環境が深く印象に残りました。

関東平野が尽きて次第になだらかな丘陵地帯が始まる所、遠く秩父の山々を望む武蔵野の面影が色濃く残る広大な敷地に、建物がゆったりと建てられ、高低差のある地形を生かして谷、池、小道が自然な趣に造られて訪れる者を迎えてくれます。

宿泊施設もある本館と会議場や研修室のある研修棟とは歩いて数分の距離で、行き来する度、白熱した会議の場から一歩外に出る時、鳥の声や小川のせせらぎが聞こえて故郷の風景の懐かしさに心がやすらぐ思いがしました。

懇親会では支部ごとに紹介があり豪華に盛りだくさんなお料理を頂きながら歓談の輪がいくつも出来て賑やかに和やかに秋の夜のひと時をすごしました。

(長谷川千恵子)



見学会(02・7・23)

朝倉彫塑館

JR日暮里駅に午前10時に集合し、朝倉彫塑館に向かいました。

朝倉彫塑館では大学婦人協会のために特別に学芸員の方が待っていて下さいました。ほとんど例のないことだったそうです。

まず、重厚なアトリエで朝倉文夫の人となり伺いました。

文夫は生意気ということですが、彫刻界で嫌われていたそうです。が、文夫は日本の芸術を世界中に認識させることを志し、自宅をヨーロッパにあるような美術館にする事を思い立ちました。完成まで7年の歳月を要したそうです。特に3階部分まで吹き抜け構造となっており、天井までの高さが8・5mというアトリエは圧巻です。



そこには有名な幕守の像や大隈重信像を筆頭に心惹かれる作品群が置かれています。そして、次は天井の高さが4mもある書斎。南側に窓を広くとり、三方の壁一杯に内外の書籍がぎっしりと天井まで並んでいました。洋書のほとんどは恩師、岩村透の蔵書だそうです。

洋の部分のアトリエを通り抜けると、和の空間になります。池の上に建つ家と錯覚する中庭の池の素晴らしさに思わず暑さを忘れました。儒教の教えを取り入れた石の配置は禅寺に居るようです。

文夫は生涯、海外に出ることはありませんでしたが、異質で対立する日本と西洋の美術や文化を違和感なく、調和、融合し、この建物自体が芸術作品となったのです。

彫塑館を堪能したあとは、隣のお寿司屋さんで、おいしいお寿司に舌鼓を打ち、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

年末に小柴さんと田中さんのノーベル賞受賞を聞いたとき、思わず、ご両人の個性が文夫の個性に重なり、朝倉彫塑館のことが思い出されました。

(端本 和子)

講演(02・9・11)

女と男の縁切り作法

講師 高木 侃氏



江戸時代の三下り半の研究で著名な専修大学法学部教授で縁切り寺満徳寺資料館長の高木侃氏のお話は「鎌倉の東慶寺と上州の満徳寺をまわると世界の縁切り寺をまわったことになる」というユーモアたっぷりのことばで始まった。

「上州のかかあ天下」やご自分の母上の生き方などから、江戸時代の女性性が男性のいいなりの生活をおくっていたとは考えられないという実感から研究が始まった。

収集した千通の三下り半の分析によると、江戸時代の女性は、「追い出し離婚」よりも「飛び出し離婚」の方が多かった。また、次のような作法があった。

一、夫は離婚原因を妻のせいにはし

なかった。三下り半の文言には

「我等勝手につき」これは妻のせいではなく、「当方の都合により」の意味と書いてあり、妻への配慮があった。

二、夫は離婚状を渡した妻から領収書をもらった。

三、夫が不法・不埒を働いたときには、あらかじめ妻に離婚状を渡さなければならなかった。

四、なじんだ「妾」と手切れすると、東上州の未婚女性は男との別れに縁切り証文を渡した。

五、「持参財産返還の原則」。

六、「離婚請求者支払い義務の原則」これは現在の離婚の原因を作った方が慰謝料を支払うということと違っている。

七、お話を伺って、江戸の女性の離婚の大変さがや、薄れ、結構たくましく生きていたのだと感じた。

高木先生の軽妙洒落なお話しぶりで、会場内は終始、笑い声が上がりとても楽しい時間が過ごせた。講演

終了後の感想は、江戸の男性はとも男らしかったとか、江戸の女性は

今よりも強かったのだとか、たまには楽しいお話もいろいろだなどという

声が多かった。

(藤平 昌子)

講演 (02・11・16)
ストレスの生物学

講師 室伏きみ子氏



秋の土曜日の午後、室伏きみ子教授の講演会場は、お茶の水女子大学の構内林を経て工事場迂回路を出た山上にありました。独立行政法人化過渡期の学部長職務の中、お力ぜとは思えない良いお声で真摯な講義をしてくださいました。二時間後、研究者を志す若いひとには、何はともあれこういう先生に弟子入りをお勧めしたい、と考えていました。

その後、「ともしび」の原稿依頼を受け、あの日のメモを探し出しました。学生時代に帰った気分ノートを取りましたが、黒板や幻灯に代わる新表示手段「パワーポイント」による説明画面を見ながらのことでした。これを使うと話が速やかに進みますから、視聴者は予め配られたフ

ァイルやプリントに各自の書き込みをする形になるようです。今回は可愛い動物の絵を含む何枚もの画像の面白味は、記録できませんでした。ご著書をお待ちしています。

古来「病は気から」と言われています。現代の医学でも、物理的、化学的、生物学的、心理社会的なストレス刺激に曝された生体の反応の研究からストレス関連疾患が知られるようになりました。ストレスを緩和する暮らし方をすれば、その種の病気のリスクは減らせるようです。

生体がストレスに曝されると、まずはバランスを保つように緊急的な全身反応が起こります（六十年前の発見）。ストレス応答反応は細胞にもあり、生命維持のため熱ショックたんぱく質（HSP）の合成が誘導されることが、この十数年間に解明されました。

室伏チームは学生さん達を研究の各段階で育てながら、ストレスを与えた細胞膜で普遍的（真性粘菌・ヒト）に起こる反応の機序を究めました。そしてステリルグルコシドの生成と、そのHSP合成誘導における働きなどが見出され、身体にやさしい薬として特許出願中とのことでした。

(時枝 裕子)

バスツアー (02・11・6)
房総への旅

(財務主催)

晩秋、早朝の新宿をバスで出発、房総への一泊旅が始まった。最初の目的地、小湊の「誕生寺」に到着。そこは日蓮上人の生涯の地とされる。寺自体は小さいが、寺庭には樹齢何百年と思われる大木が、傍らには幼少時代の像が立っている。何処からか聞こえる読経の声に、しばし鎌倉の古に思いをはせていた。空は青く深く、赤橙色の実をつけた柿の木や一望に広がるひなびた田園風景を楽しみながら、バスは房総半島を横断、昼食地、鴨川グランドホテルに到着。太平洋を展望する大きなダイニング・ルームで午餐、休憩。

次の目的地は「ハーブ・ガーデン」。そこは英国式庭園で様々な草の香りにつつまれていた。シェークスピア家の人々の生活が再現された建物もあり、当時の情景を垣間見るようだった。ガイドさんが次に案内したのは、一変して日本式の家屋。その中には、和泉元彌さんの演じた大河ドラマ「北条時宗」の舞台衣装などが展示されていた。この地で狂言の公演をされた和泉元彌さんを記

念して飾られている。しばし庭園内を散策した後、ビスケットと紅茶でティータイムを楽しんだ。つるべ落としの秋の一日、バスは木更津へ向かい、アクアラインの人工島「海はた」に着いた時、あたりは真つ暗だった。夜景を楽しみ、島内の施設を歩いてみた。時間のせいか、平日のせいなのか、レストランには人影は少なくさびしさを感じた。

新宿へ戻るバスのなかでほんやり考えた。北条時宗は襲ってくる元に命を賭けて立ち向かった。そして日蓮上人も何度も迫害されながら他国の侵略から国を守ろうと「立正安国論」を唱え続けた。今この国に本当に国を思う政治・行政のリーダーがどれだけいるのだろうか。「海はた」の静寂がこんなことを想起させたのか、房総への旅は楽しくも思うこと多い秋の一日となった。

(大村柚美子)



講演 (02・12・5)

「捨てる！技術」のお話

講師 辰巳 渚氏

去る十二月五日津田塾同窓会会議室において、表題の講演会が東京支部主催で催された。

講師の辰巳氏はマーケティングプランナーとしての経験と分析から、一昨年「捨てる！技術」という本を出版され、それが一四〇万部のミリオンセラーとなった方。捨てられぬモノに囲まれて生活している現状、若い世代からどのような提案があるのかと期待が高まった。

まず、捨てるにはモノの要不要を取捨選択すること、それは取りも直さず自分と向き合うことであると言う。所有すると言うことはそれを使いこなすことであり、メンテナンスも考慮に入れなければならない。

さらに、捨てる場合の心構えとし



て、見ないで捨てる。その場で捨てる。使いきらなくても捨てる。「しまった」を恐れずに捨てる。自分の適量を知るためには時には心の痛みを経験もした方がいい、と大胆に提案。

我々（否、私と言うべきか）モノのない時代に育ってモノを獲得することを目標としてきた世代もフンフンと納得する背景には既にモノ余りの状態にあること。また、インターネットの普及により、モノを持たなくても必要なものや情報は手に入る世の中になってきていることに気がついてからである。自分にとって何が大切かを厳しく問い質して、意識してモノを所有する姿勢が必要だという指摘に同感した。

このように辰巳氏は「捨てる」ことを主として提唱されたが、その根拠に独自の時代分析と予測がある。即ち、地球の浄化能力を超える大量生産の時代は終わった。二一世紀はインターネットで情報を共有化し、インターネットや地域通貨等を使って、モノやサービスを循環させるフロー型社会になるだろう、というものである。

時代を見据えた発言にエールを送りたいと思った。（山崎 邦子）

講座 (03・1・29)

香席へのおさそい

―源氏香をきく会―

香元 東 堯霞氏



初めての香道の席への緊張が名香にはぐされ、まだ体の中に香りをとどめ、高揚した気持のまま筆をとっております。

今回「源氏香をきく会」をご指導下さいましたのは、東堯霞氏（御家流神路会主宰）です。伊勢神宮神官の家系にお生まれになったので、祖母様の香木にも親しまれ、大学卒業後に香の道を志すことになりました。

現在は東京、伊勢を拠点に、日本は勿論、海外にも香道の普及につとめておられます。長きにわたりお香に親しまれ、道を究めておられるお姿には「馥郁と」の言葉を添えさせていただきます。

さて、香木が日本にもたらされたのは、六世紀ごろ、仏教の伝来と共に

にであり、当初は宗教的使用であったものが、平安朝貴族文化に端を発し、遊びの世界に導入され、室町末期に、和歌、連歌の席に香が持ち込まれ、茶道と共に香の作法も形成されたとのこと。香木は日本に産出せず、インド、タイ、マナバル、マラッカ、サソリー島、スマトラの主産地名を香木に付け組香に使う。

源氏香では、五種の香木を各五包、計二十五の中から無作為に五包を選び、開香炉にくべて席に回される。心を静かに集中し、充分香りを吸い、一から五の香りをきき、心に止めおく。「桐壺」と「夢浮橋」を除いた、五十二帖分の源氏香の図に照らし合わせ巻名を書く。香名あては競うものでなく、開香は、あくまでも楽しむものである。また五感の中で一番難しいのは、香りを聞き分けることであるとの先生のお話。

「香、満ちました」の先生のお言葉通り、部屋には心地よい香りが満ち、血液の循環が促され、心身ともに豊かな気分の一ときを過ごすことができました。日本独特の文化である香道を少し味わうことができ、寒空の屋外に出ても、香の温かさをいただいたままの自分を感じました。

（黒川 花子・清野 昭子）

◇特別寄稿

子育ての社会化—市民団体の子育て支援活動

田中正子(神奈川県支部)

今、保育のニーズの多様化は、保育所を増やすだけでは解決できない状況にきている。女性の短時間労働や時間外労働が増え、専業主婦の場合も学習や地域活動で家をあける機会が増え、短時間、不定期、時間外保育、障害児(自閉症児など)の保育など、さまざまな要請があるからである。さらに最近では、孤独な子育てをしている親子へのレスパイト保育の必要性が叫ばれている。市民活動としての子育て支援はこれらの要望に応えようと同時に、子育ては母親だけが責任を持つものではない、地域社会がみんなで支えていくものだという、理念が活動を支えている。

市民活動としての子育て支援には大きく次の三つがある。(1)預かり保育中心の活動で、多くの場合中高年の子育て経験者がサポーターとして活動している。(2)育児サークルの運動である。子育て中の親子が互いに預け合ったり、一緒に親子で遊んだりする。行政が場所を提供して支援しているところもある。(3)政策提言

を主とした活動である。

そんな民間団体の子育て支援活動を三つ紹介する。

かながわ女性会議では、(財)女性労働協会の助成を受けて「子育て支援者養成講座」を年二回県内各地で開催して、講座修了生(最近では男性もほぼつづつ参加している)に子育て支援グループを結成してもらった。現在十四グループが活動している。昨年は障害児や病児にも対応できるようレベルアップ講習を行った。

東京都清瀬市のk1netは、レスパイト保育の育児サークルネットワークで、預かり保育活動をしているピッコロが呼びかけて作った。清瀬市が場所と保育要員を提供し、定期的に親子で集まり、交流をはかったり、イベントをやったりしている。



「よこはま一万人子育てフォーラム」は政策提言活動のネットワークである。一昨年に市内の子

どもに関わる団体や個人が集まって「二万人子育て提言」実行委員会を組織し、七千通の子育て提言を市民から集め、提言書を作成して市長へ提出して大きな反響をよんだ。この組織が母体になって発足した団体で、子育て環境をよくするために政策提言することを活動の目的としている。今年度は横浜市の委託を受けて「親子の居場所」調査を全市で展開中である。

今後の子育て支援はこのような地域社会に根づいたネットワーク活動が中心になってくると考えられる。

「セミナーに向けて」 東京支部調査研究チーム にご参加ください

02年度全国セミナーの決議事項をふまえて、東京支部委員会は03年度のセミナーの研究発表のテーマについて、話し合いを重ねました。さまざまな問題のつぼの中にいる様な現代の暮らしの中で、関心を絞ることは難しいが、少子高齢化、子育て不安(大きな比重を占めると思われる)からくる幼児虐待の問題などが多くを占めました。孫育ての時期にある会員も多く、地域の子育て支援の状況は、バラつきはありながら、

多少は耳に入ります。

折しも、厚生労働省は03年を「次世代育成支援元年」と位置づけ、子育て支援のための関連法案を04年までの二年がかりで国会に提出して行くそうです。(03・1・10朝日)

私たちは「子育て支援」の実態を把握する中で、JAUWのテーマである「ICT」がどう生かされ、活用されたらよいかを考えていきたいと思っています。

東京支部会員の皆さまにお願いいたします。関心のある方。次世代のために何かしてみたいとお思っている方。子育て、孫育てを通して、地域の情報などをお持ちの方。ぜひ、東京支部の調査研究チームにご参加ください。計画の詳細は未定ですが、まずは、ご連絡をお待ちいたします。

(支部長 三浦由紀子)

東京支部調査研究チーム

・テーマ「子育て支援とICT」

・チーフ 遠藤 理枝 (仮題)

・連絡先

mail: ne_endo@pop16.odn.ne.jp

tel&fax: 03-3656-0880

・申込締切り 4月5日

新春のつどい 国内奨学金贈呈式

(03・1・11)

「新春のつどい」が穏やかな年頭の一日、京王プラザホテルで開催された。

「日本はまだ平和な時代にはありませんが、今年こそ世界が平和になりましよう」と今井会長の挨拶があり、出席された十二名の奨学生に賞状と奨学金が贈呈された。海老根国内奨学委員長から「日本の若い女性たちが着実に力をつけているのは本当に嬉しい。ことによったら、ノーベル賞に繋がる人がこの中に含まれているかもしれない」とユーモア溢れるお祝いの言葉。鈴木社会福祉委員長は、障害を乗り越えて弛みなく続けられる奨学生の努力を称えた。



例年のことながら、若い奨学生たちのスピーチはたいへん爽やかで頼もしい。どの方からも受賞に対する喜

びと感謝が語られ、「諸分野で活躍する先輩方が自分の研究に評価を与えてくださり、続けてきてよかった」の感想に、共に分かちあえる幸せを感じた。急に欠席された竹内尚子さんに代って、担当教授の川崎先生が「自然体でよいいな気を遣わせない人。障害者枠で就職が叶いました」と嬉しい報告をなさった。

高野フミ先生が乾杯の音頭をとられ食事が始まり、同じテーブルを囲んでいる奨学生たちも若い人同士和やかに歓談。青木IFUW会長からは「教育を通して、弱い立場の人にも利益を行き渡らせることができるように、IFUWのランブの火を灯し続けましょう」とメッセージ。奨学生たちにも、いつかぜひ、私たちの活動の輪に加わっていただきたいと思った。

今日の特別メニューは社会福祉奨学生木村りえさんのピアノ演奏。花模様のピンクのドレスがよく似合う。ご自身大変好きだというメンデルスゾーンの前奏曲に聴き入る。この賞を励みに、奨学生の方々のさらなる活躍を祈ります。

※この奨学金の一部として東京支部から十五万円を寄付しています。

サークル紹介

英語講座

- ・第一・第三金曜日

午前十時～十二時

- ・大久保地域センター三階

- ・講師・松本節也元法政大学教授

「さし絵入り英国史」を原書で講読

中。講師による詳細な注釈、ヒアリングのためのテープ、参考資料

をもとに輪読しています。

- ・連絡先・伊藤美奈子

(03・04・06・09・11・13・15・17・19・21・23・25・27・29・31)

楽しい俳句会

- ・第三水曜日 午後一時半～三時半

- ・JAUW事務所会議室

- ・講師・柴崎富子

(俳人協会会員・読売カルチャー講師)

札幌支部俳句会とも交流しています。

数名の余裕があります。見学を歓迎します。

- ・連絡先・海老原典子

(03・03・05・07・09・11・13・15・17・19・21・23・25・27・29・31)

源氏物語を読む会 (I)

- ・第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

源氏物語を読む会 (II)

- ・第二・三・四火曜日

午前十時～十二時

- ・津田塾同窓会会議室

- ・講師・坂上栄美子

「絵合」の巻を読んでいます。

- ・連絡先・中山律子

(03・03・05・07・09・11・13・15・17・19・21・23・25・27・29・31)

フラワードesign

- ・JAUW事務所会議室
- ・講師・坂上栄美子
- ・「真木柱」の巻を読んでいます。
- ・連絡先・平田宏子

(03・04・06・09・11・13・15・17・19・21・23・25・27・29・31)

東京漫歩くらぶ (休会中)

会員相互の親睦をはかるために、どのサークルも和やかな雰囲気の中で活動しています。まだ余裕がある所もありますので、ご入会希望の方は係までご連絡ください。

- ・連絡先・山崎邦子

(03・04・06・09・11・13・15・17・19・21・23・25・27・29・31)

